

令和元年6月26日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2018

課題番号：26370213

研究課題名（和文）『万葉集』の本文と付訓の戦後研究史総括と新時代への《読み》の可能性提示の研究

研究課題名（英文）Study of integration of a postwar history of research about the kanji text and reading of Manyōshū, and of presentation of possibility about the new reading for a new epoch

研究代表者

大浦 誠士 (Oura, Seiji)

専修大学・文学部・教授

研究者番号：10319212

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：我が国伝存最古の歌集である「万葉集」については、未だ漢字本文や訓読について定まっていない箇所が多く存在する。本研究では、戦後の注釈書に採用されている漢字本文と訓読とを、テキストデータとしてまとめ、それらを総覧できるシステムを構築することによって、「万葉集」研究において検討の必要な要件をできるだけ簡便に把握できることを目指した。このシステムの完成によって、未来に向けた「万葉集」の新しい研究が進んで行くものと考えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国伝存最古の歌集である「万葉集」の歌を研究するにあたっては、漢字本文の検討と訓読の検討が必須であるが、本研究によって戦後注釈書に採用されている漢字本文と訓読を簡便に見わたすことが可能となり、「万葉集」研究において検討すべき問題点を容易に把握することが可能となる。よって、今後の「万葉集」研究の進展速度を格段に上げていくことが期待できる。

研究成果の概要（英文）：There are a lot of parts which aren't decided yet about the kanji text and reading about "Manyōshū". This study gathers the kanji text and reading adopted in postwar notation books as a text data, and builds the system that you can search for the differences of them. And we aimed to be able to grasp necessary elements to be considered as handily as possible. By this system, we think a new study of "Manyōshū" for the future will advance and go on.

研究分野：日本上代文学

キーワード：万葉集 日本文学 和歌 上代文学 データベース

1. 研究開始当初の背景

(1) 主観的な傾向の強い第二次世界大戦前の「万葉集」研究に対して、戦後には客観的な訓詁注釈を基本として、『万葉集注釈』（澤瀉久孝）、『日本古典文学大系 万葉集』（五味智英他）をはじめとして、次々と「万葉集」の注釈書・テキスト類が出版されるようになった。

(2) その一方、近年の国文学研究を取り巻く環境は厳しくなり、少子高齢化の影響も加わって、今後「万葉集」の研究に携わる人材の著しい減少が予想される。そうした中、「万葉集」研究の進展を図るためには、これまでの注釈・テキスト類の本文と訓とを統合的に把握し、研究における問題点をできるだけ簡便に把握できる環境の整備が急務である。

2. 研究の目的

(1) 上記のような状況の中で、多く出版される「万葉集」のテキスト類における漢字本文と訓のありようを、これまでのように各研究者の関心による個別的なアプローチではなく、統合的な視点によって全体を把握することが求められる。

(2) よって本研究は、戦後万葉学の数多くの本文と訓を統合的に捉え、「万葉集」の本文校訂・訓読・解釈を相対化する視点から、「万葉集」における時代・社会と《訓み・読み》の関係を検証して、現代・将来の「万葉集」の《訓み・読み》の可能性や新しい論点を析出することを目的とする。

3. 研究方法

(1) 戦後の注釈書・テキスト類から下記を取り上げ、その漢字本文と歌の訓読についてのデータベースを作成する。

01. 佐竹昭広他『万葉集 本文篇』（S38、塙書房）
02. 鶴久他『万葉集』（S47、おうふう）
03. 高木市之助他『日本古典文学大系 万葉集』（S32-43、岩波書店）
04. 『新編国歌大観』（S58-H4、角川書店）
05. 小島憲之他『新編日本古典文学全集 万葉集』（H6-8、小学館）
06. 井手至他『新校注 万葉集』（H20、和泉書院）
07. 澤瀉久孝『万葉集注釈』（S32-43、中央公論社）
08. 佐竹昭広他『新古典文学大系 万葉集』（H11-15、岩波書店）
09. 中西進『万葉集 全訳注原文付』（S53-61、講談社）
10. 伊藤博『万葉集釈注』（H7-10、集英社）
11. 多田一臣『万葉集全解』（H21-22、筑摩書房）

データベースの作成においては、データベースの信頼性を最優先として、校正作業に注力する。最終年度には各注釈・テキスト間における歌・題詞・左注の漢字本文・訓読の相違点のみを捉えられるシステムを構築する。

(2) 上記の検索システムの構築は、本研究課題の目的であり、研究進展のための環境整備として大きな意義を持つが、それ自体は「万葉集」研究の成果とは言えない。そのシステムを駆使しつつ、万葉歌の読解・分析を進める必要がある。よって、システムを活用しながら、万葉集の用語研究、作品研究、表現研究等を進める。

4. 研究成果

(1) データベースと検索システムに関しては、研究期間内には、上記の「11. 『万葉集全解』」を除く注釈書・テキスト類の漢字本文・訓読のデータベースを作成し、相違点を検索できるシステムの構築を行った。

(2) 万葉歌の訓読を直接に扱った研究成果としては、古来訓読に問題の多い巻一・四八番歌の読み解きを試み、定訓には到らなかったものの、訓読・解釈上の問題点の指摘を行った(美夫君志会大会の研究発表会において発表)。

(3) 万葉集に見られる用語に関する研究においては、万葉集に表れる「霧」の表現性について考察を行い、相聞の歌において「霧」が恋情を象る様相を捉え出し、美夫君志会例会において研究発表を行った。また、「なへに」という用語を伴う歌を取り上げて、論理を超えた2つの現象の連動を表現する表現性について、『万葉集研究 三八集』に論文を発表した。

(4) 万葉歌の表現研究として、物に寄せて恋情を歌う「寄物陳思」と呼ばれる表現形式を取り上げ、「物」に「寄」せるということがどのような表現であるのか、その本質を捉える考察を行い、美夫君志会例会において研究発表を行った。また、万葉集の旋頭歌を取り上げ、その訓読の問題を含めて、旋頭歌という表現形式が本来持っている特質についての考察を行い、「話題の提示 読み解き」という近年提示されている旋頭歌観に即して、人麻呂歌集所出の旋頭歌に見られる表現性について考察を行った。また、万葉集の季節歌をめぐって、「色づきにけり」と歌う歌を中心に考察を行い、自然界の微妙な変化を敏感に感じ取り、季節をその推移において歌う万葉集季節歌の特質について、美夫君志会例会において研究発表を行った。

(5) 万葉集の作品研究においては、柿本人麻呂のいわゆる「留京三首」を含む持統天皇六年の伊勢行幸歌群を取り上げ、行幸歌と羈旅歌との交差によって生み出され、行幸歌の表現が変容して行く画期としての意義を析出した。また、大伴旅人を中心とする大宰府での望郷歌群について、大伴旅人の望郷歌に先行する小野老・大伴四綱の歌の読解を深め、二人の歌についての新たな読み解きとともに、二人の歌が大伴旅人の望郷歌をどのように引き出しているかについての考察を行った(『専修国文』に論文として発表)。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計5件)

大浦 誠士、万葉集「なへに」の表現性 人麻呂「泣血哀慟歌」に触れて 、万葉集研究、査読有、38 集、2018、69-100

大浦 誠士、持統六年伊勢行幸歌群の表現史的意義 卷一行幸関連歌の中で 、萬葉語文研究、査読有、12 巻、2017、95-115

大浦 誠士、万葉集卷三「大宰府望郷歌群」考 小野老・大伴四網歌の機能 、専修国文、査読有、98 号、2016、27-46

大浦 誠士、『万葉集』の天津皇子・大伯皇女物語、高岡市萬葉歴史館叢書、査読無、27 巻、2015、3-20

大浦 誠士、万葉集「旋頭歌」の本義 人麻呂歌集旋頭歌を中心に 、万葉集研究、査読有、35 巻、2014、45-76

[学会発表] (計6件)

大浦 誠士、尾張の歌 、美夫君志会例会、2018

大浦 誠士、色づきにけり 万葉集の季節歌 、美夫君志会例会、2017

大浦 誠士、万葉の「霧」、美夫君志会例会、2016

大浦 誠士、万葉集四八番歌の訓釈 人麻呂はなぜ「返り見」したか 、美夫君志会大会、2016

大浦 誠士、寄物陳思の論、美夫君志会例会、2015

大浦 誠士、万葉の衣類と恋、美夫君志会例会、2014

[図書] (計3件)

大浦 誠士・上野 誠・村田 右富実共編著、笠間書院、万葉をヨム 方法論の今とこれから、2018、244

渡部 泰明・中嶋 真也・大浦 誠士・鈴木 宏子・小林 一彦・田中 康二・錦 仁・小山 順子・谷 知子・上野 誠・廣木 一人、笠間書院、和歌のルール、2014、166

多田 一臣・大浦 誠士・兼岡 理恵・塩沢 一平・新谷 正雄・高桑 枝実子・中嶋 真也、筑摩書房、万葉語誌、2014、430 (25 項目を担当)

[産業財産権]

特になし。

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：村田 右富実

ローマ字氏名：(MURATA,migifumi)

所属研究機関名：関西大学(大阪府立大学より移籍)

部局名：文学部

職名：教授

研究者番号：30244619